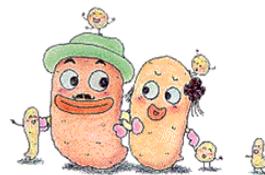


湯戸飛夜いけいけだより



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

戸田駅前にポケットパークが完成

西徳山まちづくりの会が誕生して20年目を迎えます。20年前の駅前広場は、戸田駅が平成6年12月に無人化となり、手入れが行き届かず荒廃していました。平成9年(1997年)6月14日に開催した『西徳山いけいけフェスタ』を契機に結成された西徳山まちづくりの会では西徳山の玄関口である戸田駅前の整備を行政に働きかけ、地元と一体となって戸田駅周辺の整備に取り組んで来ました。

その結果、平成20年2月には駅前トイレが完成し、駅前広場の第1期整備も完了しました。西徳山まちづくりの会では、『戸田駅を花の駅にしよう』を合言葉に、駅前花壇のお世話を続けてきました。

平成20年10月には駅前広場西側空地に道の駅実証店舗「とれたて市場ゆーとぴや」が設置されました。

平成25年5月「道の駅ソレーネ周南」のオープンに伴い「とれたて市場ゆーとぴや」が閉鎖され、この跡地利用として、駐車場の拡張とポケットパークの設置を行政に要望し、今年度事業化され、花壇と東屋のある駅前広場が完成しました。

整備されたポケットパークは思ったよりも広く、ほっこりとする東屋があり、花壇は四つ葉のクローバーのように四つあります。この花壇での花育てに地元のみんが参加し、お世話して、毎シーズンきれいな花を咲かせ、このポケットパークが皆さんの安らぎや憩いの場となるよう願っています。



花の育て親大募集

この度整備されたポケットパークには花壇が四つ新設されました。

この花壇は地元住人皆の花壇です。

西徳山まちづくりの会はこの花壇の『花の育て親』として名乗りを上げます。

皆さんも一緒に、戸田駅を花いっぱいのにしませんか。

花育てをしたい方、個人、グループ、団体を問いません。皆さんの参加をお待ちしています。



記事:

- ・ 戸田駅前にポケットパークが完成
- ・ 花の育て親大募集
- ・ 平成28年度の活動を検証する
- ・ 連載小説
『涙にぬれた蒼き思いー徳山七土物語ー』第3回
- ・ 名所・旧跡
「ぼんぼん岩」
- ・ 今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

連絡先:

(0834) 63-3770
(神本)まで

平成 28 年度の活動を検証する

(1) 戸田駅を中心とした活動を継続する

- ①西徳山の玄関口である戸田駅を「花の駅」として整備する
- ②駅舎の活用を考える
- ③戸田駅前でのイベントを継続する（夏のビアガーデン、冬のクリスマス会、他）

《総括》

- ①については、毎月第2、第4土曜日に戸田駅前の清掃を実施し、夏場の花壇の水遣りを当番で行った。また、市にポケットパークの提案をし、今年度、駅前広場再整備事業で、駐車場、休憩所と花壇が整備された。
- ②については、進んでいない。
- ③については、戸田駅前広場で7月と10月に「駅前ビアガーデン」を開店した。

(2) 「道の駅ソレーネ周南」を拠点とした活動に新たに取り組む

- ①「道の駅ソレーネ周南」の盛り上げに積極的に協力する

《総括》

- ①については、8月の「ソレーネ周南夏まつり」にイカ焼きを出店、11月の「西徳山いけいけ大収穫祭 in ソレーネ周南」にぜんざいを出店した。屋台村の販売で収入はあるが、定期的な収入源確保とはなっていない。

(3) 西徳山の発展を目指した新たな活動に取り組む

- ①“観光資源” “自然環境”を活かした活動を目指す
- ② 西部地域のウォーキングコースを充実・PRする

《総括》

- ①については、いけいけだよりに3地区の歴史・観光・史跡を紹介した記事を載せ、これをまとめて、MAPを作りたいと考えている。また、地元の有名人として、どなたが居られるか情報を収集して

いるところです。

- ②については、MAP作りについての原案は作成済みで、事務局でどのような形にするかを検討中です。また、ガイドの案内原稿を作成し、てくてくガイドを養成したいと活動を進めている。

(4) 交流・研修・広報活動に取り組む

- ①研修旅行、見学会の定期開催
- ②セミナー、交流会の企画開催
- ③「湯戸飛夜いけいけだより」の定期発行

〈総括〉

- ①と②については、今年度は実施しなかった。
- ③については、3ヶ月ごとに年4回発行した。

(5) 組織を充実し拡大する

- ①会員増強
- ②全体会への会員の参加を促す

〈総括〉

- ①については、駅前イベントを実施し、会員が1人増えました。
- ②については、月1回、映画鑑賞会を開催した。

(6) 他の諸団体と連携し効果的な活動を展開する

- ①西徳山の他組織との連携
- ②行政との連携及び提案
- ③他団体との連携

《総括》

- ②と③については、連携ができなかった。
- ②については、戸田駅前の再整備を提案し、新たな戸田駅前広場が完成した。

駅前花壇で「公園花とみどり課」と「種から育てる花作り」を連携して進めた。



連載小説

『涙にぬれた蒼き思い—徳山七士物語—』 第3回 文 城山 耕作

(これまでのあらすじ)

1863年、外国船を打ち払い天皇を中心とした政治に戻そうという「尊王攘夷」をかかげていた長州藩は、薩摩・会津・桑名各藩が起こした「八月十八日の政変」により、京都から政治的影響力を一掃されることになった。

この話の中心「徳山毛利藩」では、藩主毛利元蕃（もうりもとみつ）に側室となる姫を招き信頼を得ることをはじめ、次々と政敵を破った家老野上源次郎が藩の政治を取りしきっていた。

ある日、小坂次郎佐が藩の剣術道場に足を運ぶと、見覚えの無い一人の剣士が他の藩士と竹刀を交え、明らかに相手を圧倒していた。自分が京都で職務にまい進している間に、藩内で急成長した若者のようで、一刀流剣術の使い手で道場の師範をしている実父浅田栄三郎に尋ねてみると、名を、「田中一学（たなか いちがく）」という。

「竹刀で上段から下にたたきつける剣筋は、我々が知る一刀流と少し違う気がします。」と次郎佐が栄三郎に尋ねると、一言、「彼は、江戸の練兵館で神道無念流を学んでいるのだ。」と返ってきた。

「神道無念流」とは、人気が集中している「江戸三大道場」の流派の一つで、長州藩士も多く修行しており、一時期、萩本藩の桂小五郎が塾頭を任されていた剣術である。

次郎佐が防具を着けて練習相手を探していると、先ほどまで練習をしていた田中一学が休息をとっていた。防具を外した彼の姿は若々しく、例えて言うならば、美少年と評した方が早い。

「お初にお目にかかります、私は、小坂次郎佐と申します。貴殿の剣は、他を圧倒しておりましたな。」と次郎佐が田中に声をかけると、「ご挨拶が遅れました、田中一学と申します。小坂先生の京都での活躍や、藩校での講義、剣術の腕は、いつも耳にしています。」との返事が戻ってきた。続けて、「小坂先生には多くを学びたいゆえ、今後とも宜しくお願い申します。」と物腰のやわらかい丁寧な口調で話してきた。笑顔は、裏表のない“純粋な美少年”であった。

小坂次郎佐は、幼い頃からずっと実父浅田栄三

郎に剣術の指導を受け、剣術流派の目録などの取得は無いが、緊迫した京都洛中を過ごした「生きるための剣」を体得しており、先ほどまで自分の目で見た神道無念流と竹刀を交えてみたいという、強い衝動に駆られていた。

「よろしければ、お手合わせをお願いできないだろうか。」と次郎佐が田中に伝えると、「高名な小坂先生とお手合わせをできるのは、大変に光栄です。」と即座に言葉が返ってきた。

栄三郎が見守り、道場全体が固唾を飲んで二人の対戦を見る、静寂な時間が道場に流れた。

神道無念流の上段の構えと、中段に構える一刀流の構え、双方が足さばきを繰り返す中、田中が繰り出す上段からの一撃が静寂を破った。対し、次郎佐が本能で反応したのが、面を払った瞬間に繰り出した「胴払い」であった。神道無念流は力で押す剣術で、唯一の弱みが胴の防御が後手に回ることと評されており、その情報を次郎佐は心得ていないが、これまでに体得した“勘”が無意識に体を動かした結果、栄三郎の「そこまで！」という一声につながった。

田中一学は、島田村にある庄屋の出身で、物心ついた頃に士分を持つ「田中家」に養子に迎えられた。それ以降は剣で身を立てるために一心不乱に剣術へ打ち込み、頭角を現すと、20歳で江戸へ剣術修行が許された。そこで、萩本藩の桂小五郎や高杉晋作も修行していた練兵館の門を叩くことになり、全国から修行で集まった血気盛んな猛者たちと、日々の稽古を繰り返した。

田中は持って生まれた才覚に一段と腕を磨き、練兵館でも一目置かれる剣士に成長したが、型にはまらない独特の剣筋のため、目録の取得には至らなかった。しかし、全国から集まる猛者との日々繰り広げられる立ち合いの中で修練を繰り返し、練兵館の“居合”も学び、帰藩する日までには居合の技術も体得していた。

帰藩後は、田中家の縁戚にあたる、家老の野上に仕えることとなり、野上の身辺警護に就いている。

(以下次号)



西徳山まちづくりの会

編集後記

桜田中学校の卒業式に出席しました。式は厳肅に執り行われました。蛍の光の後、卒業生のすすり泣きの中、仰げば尊しが歌われます。やはり、卒業式はこうでなければいけません。桜田中学校の質の高さに感心もしながら、思わずもらい泣きをしてしまいました。

卒業生代表の答辞は、先生、在校生、両親への感謝の気持ちが表現され、感動させられました。その中で、地域の人たちへのお礼も盛り込まれていました。最後は卒業生が心を一つにしてコーラスを披露してくれました。それはとても美しいものでした。思いが詰まった言葉や歌のなんと素晴らしいものでしょう。

今の中学生が、私たちの戸田駅前の花の駅などの活動を見て、少しでも心を動かしてくれたらと思いつつ、式を後にしました。

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページURL:

nishitokuyama.web.fc2.com

名所・旧跡

「ぼんぼん岩」

以前、佐畑と戸田山・橋本の集落境界の龍岩（たついわ）井出に、北の先端が龍の形をした岩があり、川のせせらぎの流れの音が反響して「ポンポン」と聞こえていたので、「ぼんぼん岩」の愛称でみんなに呼ばれていました。



佐畑の北西端にあるぼんぼん岩

国道2号拡幅にかかる夜市川工事の折、除けなければいけなくなったので、以前の10分の1にはなりませんが、心ある方のご尽力により、現在の場所に移築されて、今に至っています。

集落境界の為、「申し」の折、集落各々が吉凶方角に当たる年には御幣を立ててお祭りしたものだそうです。

「龍岩井出」といわれた井出は、現在は、城山井出溝と呼ばれ、現在も井出として、佐畑地区の水田を潤しています。



お知らせ

西徳山まちづくりの会総会

日時 平成29年4月22日（土）15時から
場所 戸田駅前広場 東屋付近
参加費等 まちづくりの会会費 2,000円
懇親会会費 2,000円

西徳山まちづくりの会全体会

原則として毎月第1水曜日の19:30から夜市公民館で開催します。

映画鑑賞会「そうだ!!昔の映画を見よう！」

原則として毎月第3水曜日の19:00から夜市公民館で開催します。興味のある方、無料ですので、是非おいでください。

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。お手伝いしていただける方、大歓迎です。